

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 21 章 5～19 節＞

1 神殿の何に見とれていたのか？ — イエス様が問われた理由は？

神殿の見事な石と奉納物に見とれていた人たち。彼らに対して明らかに苦言を呈されたイエス様。何が問題だったのでしょうか？ 主がそこで示されたのは、エルサレム神殿が紀元 70 年にローマ軍によって破壊されるということでした。神殿の何に見とれるか、です。

2 「その時」についての理解の違い — 神の時と人の時の違い

見とれていた人たちは「いつそれは起こり、どんな徴があるか」とイエス様に問いました。イエス様のお答えは、この後 21 章の終わりまで、エルサレム神殿の破壊と共に、いわゆる「終末」ということを人々に考えさせる内容が混在したもので展開されています。大事な点は、終末と言っても、イエス様は「その時がいつか」ではなく、「それに向かう中でどのような姿を取るべきか、そのような姿を取れるのはなぜか」に力を込めて語られているということです。

3 イエス様の話の強調点 — 信仰者にとっては証しをする機会

① (8-11) 「起こるに決まっている」(9)の「決まっている」は英語の must に当たり、神様のことが考えられています。人は得体のしれないこと、将来が見えないことにぶつかると、「何が起こるか分からない」という恐怖に支配されます。しかし、信仰者は常に、「すべては神様の御手の中に置かれている、その神様はイエス様を私たちに送って下さった神様なのだ」と思って歩みを進めることができるのです。

② (12、16-17) イエス様を信じたら苦難に遭うということをイエス様が語られています。しかし、苦難のない人生はなく、信じたら苦難がなくなると語られる方がおかしいと言えるでしょう。

③ (13-15, 18-19) 苦難に遭うことだけでなく、イエス様は、「それはあなたがたにとって証しをする機会となる」(13)とされています。苦難も耐えられる(19)、だから証しの機会とされているのです。「弁明するために必要以上に準備をしないでいい、なぜなら私^ががあなたを支えるから」(14)と教えておられます。

①②③全部が神様を中心に考える中から出て来ている内容です。私たちに恐れを起こすものに目を奪われるのではなく、恐れるものを全て御手の中に置かれている神様に目を向けて生きて生きましょう。